

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	281

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	観光振興
事業目的	犬山の観光推進及び観光イベントを実施する。 新しい観光資源の発掘・育成を図り、地域振興を進める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○犬山の観光推進に関わる体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の事務局体制を維持・強化するための支援を実施することで、広域圏からの観光誘客や招聘等を積極実施し、法人としての機動力と柔軟性を活かした観光事業の推進を実現する。 ○犬山市の観光情報ホームページの運営管理 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報について、旬な情報提供に心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮したホームページの管理を行う。 ○観光に係る環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県や愛知県観光協会、広域連携組織等との連携により宣伝体制を維持継続する。 ○地元のおもてなしの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・観光イベントの安全実施などについて、運営指導を行う。 ・栗栖地区、入鹿地区など観光推進や受け入れ体制を強化する。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> (効果) 犬山の観光を振興し、観光誘客が図られる。
事業の成果・効果	犬山市観光協会は、法人化されたことにより信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織力を活かした観光振興を実施。取り分け、観光宣伝では、ホームページによる観光情報を積極的に発信。旬な情報提供を心がけ、見易さ、わかりやすさに配慮しながら実施した。また、観光案内所の運営等、観光振興における役割を十分に全うしている。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

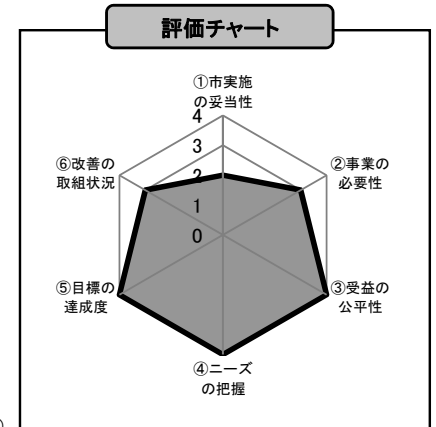
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳			総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源	一般財源の割合	情報発信	利便性向上	他市比較
観光振興事務	813	0	813	100%	3	3	3
観光協会運営補助	25,840	0	25,840	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,653	0	26,653	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		23,564	26,653	27,270
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	23,564	26,653	27,270
一般財源の割合	100%	100%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多面的で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛情勢に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町歩行者天国に関する地区住民との意見交換会を実施し、問題や課題の把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	観光宣伝、自主事業等、法人化による信頼感、責任感、使命感を持って観光振興を推進している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	観光振興に関し、犬山市観光協会が果たす役割を責任感を持って全うしており、前年どおりの事業展開としている。
令和元年度に見直しを実施している事項	観光振興においては、インターネットでの情報発信の重要性は更に高まりを見せているため、ツイッターや専用ホームページなどの運用を的確に実施し、情報の質と精度を高めていく。
今後見直しを検討する事項	国が推奨するインバウンド需要の取込みも踏まえた観光地域づくりについて、行政や観光協会の役割の中で、課題等の整理と検証を実施していくことも視野に入れ展開する必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山市観光協会の組織と体制強化	犬山市観光協会の組織を強化し、「稼ぐ」視点を重視した上で、事業活動を拡充することにより、犬山市の観光振興を推進する。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	281

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	犬山観光に関する情報を国内、国外に発信するとともに、来訪する観光客に対しておもてなしを行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○犬山観光キャンペーンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道と連携し、春夏秋の宣伝キャンペーンを実施。 ○催事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・日本ライン夏まつりや秋のイベントを実施する。 ・日本ライン夏まつり納涼花火大会の実施にあたり、クラウドファンディングを活用したが、十分な成果は得られなかった。 ○キャラバン等の観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋、首都圏、関西圏での集中キャラバンや鉄道駅を活用した観光宣伝を実施。 ○愛知県大型観光キャンペーン等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・J Rや旅行会社等に商品造成の売り込みを実施。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各種協議会や連携市町による観光宣伝、集客イベントを実施。 ○国内、国外の観光客の受入に関するおもてなし事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人の受け入れ体制を強化する。 ・滞在時間延長のためにおもてなし企画の拡充を実施。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> (効果) 観光誘客を促進し、観光振興を図ることができる。
事業の成果・効果	観光動向の指標とされている平成30年の犬山城登閣者数は61万人を超え、過去最高記録が更新され、観光客は増加している。また、城下町のまち歩きを楽しむ観光客も年々増加している。名古屋鉄道とタイアップして実施している犬山観光キャンペーンのコンテンツである串キングや着物企画等、観光客各個人がSNSを利用して情報が拡散されたことによる観光客の来訪も増加している。取り分け、いわゆる「インスタ映え」するスポットを民間事業者等が多く創出することにより若年層が多く訪れるようになっている。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

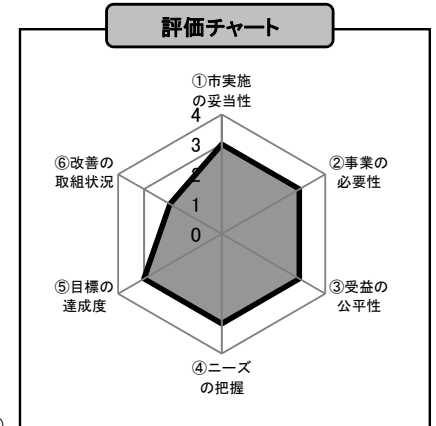
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
観光客誘致	86,087	10,473	75,614	88%	3	2	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	86,087	10,473	75,614	88%	3	2	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		64,965	86,087	91,962
財源内訳	国庫支出金	0	0	175
	地方債	0	0	0
	その他	100	10,473	10,790
	一般財源	64,865	75,614	80,997
一般財源の割合	100%	88%	88%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市、一般社団法人犬山市観光協会、民間事業者で連携し実施している。
②事業の必要性	3	名古屋鉄道をはじめとする民間事業者との連携、犬山祭や日本ライン夏まつり等の催事の実施、営業活動であるキャラバンの実施は市の観光客誘致施策として必要性が高い。
③受益の公平性	3	犬山祭や日本ライン夏まつりの開催は、すべての市民に対して展開される意義深いサービスである。
④ニーズの把握	3	登閣者数、写真コンテスト応募点数、串キング決定戦投票数、城下町スタンプラリー応募者等は増加傾向にあり、ニーズ把握に努めている。
⑤目標の達成度	3	毎週末だけでなく、平日も城下町を訪れる観光客は増加している。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。また、常に改善を念頭に効果的な誘致活動を展開している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	観光客誘致を事業目的とする犬山大規模集中宣伝協議会負担金の在り方を精査し、会計年度ごとにおける負担金の精算はもとより、会計年度を4月始まり3月終わりに見直し、透明性を高め、わかりやすくした。
令和元年度に見直しを実施している事項	従来の宣伝体制に加え、平成30年にはJ Rグループと連携した誘致活動を全国展開。これまで対象とならなかった地域等への情報拡散を図り、広域でのPR活動を推進した。
今後見直しを検討する事項	観光客が城下町に多く訪れるようになった一方、地域住民の日常生活に支障が生じているという課題が顕在化している。今後、交通渋滞やゴミ問題など、住民との共存を図ることができる施策事業に見直しをしていく必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光客が城下町に多く訪れるようになった一方、地域住民の日常生活に支障が生じているという課題が顕在化している。今後、交通渋滞やゴミ問題など、住民との共存を図ることができる施策事業に見直しをしていく必要がある。	令和元年度から観光戦略策定に着手する。策定に至るプロセスの中で、城下町の課題を議論し、改善に向けた取組みを進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	281

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	観光施設管理・運営
事業目的	犬山を訪れる観光客に対して快適な環境を提供する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○城前観光案内所設置に向けた設計委託（調査、各許可申請手続き） ○キャッスルパーキング自動ゲート化導入及び一体的な観光駐車場管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・内田観光駐車場及びキャッスルパーキングの利便性を高めた確に運用する。 ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> （効果）観光誘客を促進し、観光振興が図られる。
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の維持管理は必須であり、トイレの不具合等への迅速な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正な管理を実施した。交通渋滞緩和の為、H29年度末に内田観光駐車場を整備し運用を開始。城下町へのアクセスが容易な場所に収容台数が見込める施設を整備することができ、交通需要にこたえることができた。H30年度はキャッスルパーキングの自動ゲート化工事も完了し、円滑な駐車場管理と車両の誘導を実現した。また、観光案内所の設計業務が完了。次年度施工に向けた準備を行うことができた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

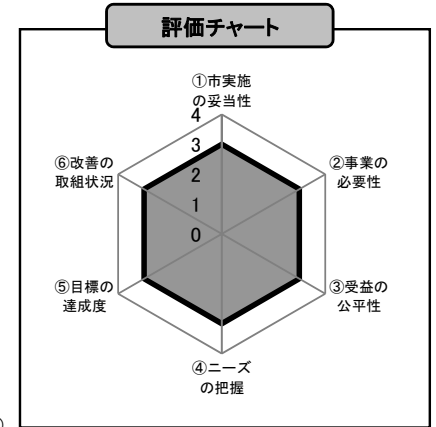
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
観光施設管理	18,350	18,350	0	0%	3	3	3
観光案内所運営	16,382	16,382	0	0%	3	3	3
観光案内所整備	2,786	2,786	0	0%	3	3	3
観光駐車場管理	49,324	49,324	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	86,842	86,842	0	0%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	102,049	86,842	101,389
財源内訳			
国庫支出金	0	0	10,149
地方債	0	0	0
その他	84,711	86,842	91,240
一般財源	17,338	0	0
一般財源の割合	17%	0%	0%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	観光客数や観光需要、観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	内田観光駐車場は当初予定したとおりの運用を実施している。キャッスルパーキングは予定どおり工事を完了し自動ゲート化を実現した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	キャッスルパーキングは自動ゲート化を実現し、これまで人による料金徴収を行ってきたが、ゲート管理により円滑な車両誘導を実施することができるようになった。また、料金徴収の人員も削減することができた。
令和元年度に見直しを実施している事項	恒久的な施設としてキャッスルパーキング内に観光案内所を設置し、観光客への円滑で満足度の高い案内業務を実現する。また、トイレなどの観光施設を順次改修し、利用者にとって利便性を高める。
今後見直しを検討する事項	交通渋滞を緩和させるために、道路内の車両が滞留すること無く、駐車場などへ円滑に誘導する必要がある。今後見直しを検討する必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
城前観光案内所の整備に向け、建設工事を的確に進める必要がある。また、城下町エリアにおける観光トイレについては、過不足なく適正に整備し維持管理する必要がある。	城前観光案内所については、関係機関等との調整を的確な時期に適正に実施し、令和元年度中の整備完了を目指す。また、観光トイレについては犬山橋トイレを始め、老朽化が目立つものも多く、順次計画的に更新していく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	285

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	観光事業振興基金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立、一時的に大きな費用が必要な事業が発生した場合に活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用する。 ※城前観光案内所の整備に係る費用（設計、工事）に活用する。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> (効果) 観光振興基金の運用及び活用が図られる。
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立てており、30年度も計画的に実施し効果的な資金運用を実現することができた。

II：個別事業内訳

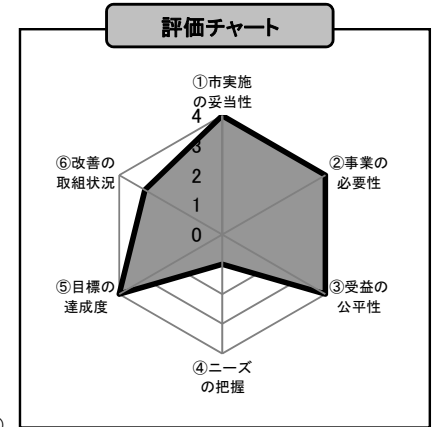
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
観光事業振興基金積立金	8,221	4	8,217	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	8,221	4	8,217	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		8,103	8,221	1
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2	4	1
	一般財源	8,101	8,217	0
一般財源の割合	100%	100%	0%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済危機等の状況であっても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	特になし
令和元年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	城前観光案内所を恒久的施設としてキャッスルパーキング東面、犬山神社西に新設する予定。その際、財源のひとつとして基金を活用する予定である。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。取り分け、令和元年8月に名鉄犬山ホテルが閉鎖されるため入湯税の減収することとなり、財源の確保が課題となっている。	大きく改善できる余地はないが、更なる観光振興施策を展開することにより、既存宿泊施設の稼働率を上げ、少しでも税収が得られるような取組みを進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	285

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	木曾川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曾川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○鵜舟操船に係る船頭の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業を実施し、船頭不足の解消と鵜飼の保存に取り組む。 ○木曾川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の鵜舎の老朽化により、移転について継続した研究を行う。 ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・今後も犬山の伝統漁法、木曾川の観光資源として継続していくため、取り組み体制について継続して検討する。 ●その他（効果） <ul style="list-style-type: none"> ・木曾川うかいを伝統文化として保存し、観光資源として活用できる。 ・活用することにより、観光振興、観光誘客の促進が図られる。
事業の成果・効果	1300年続く「木曾川うかい」という伝統的漁法を犬山のかげがえのない伝統文化として今年度も引き続き実施し、保存継承することができた。但し、大雨などによる河川の増水などもあり、川止めの日も多くなり、鵜飼観覧者数は昨年よりも減少した。地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業において、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

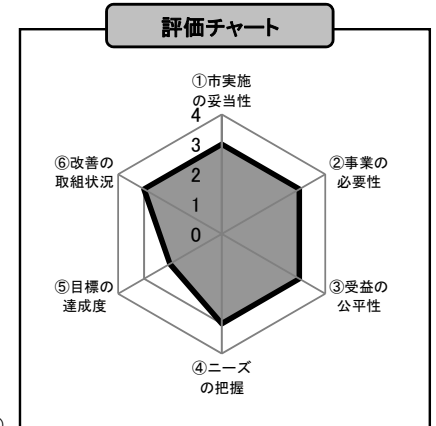
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
木曾川うかい事業費特別会計繰出金	58,157	6,526	51,631	89%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	58,157	6,526	51,631	89%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		52,307	58,157	69,553
財源内訳	国庫支出金	7,011	5,721	5,721
	地方債	0	0	0
	その他	9,073	805	47,874
	一般財源	36,223	51,631	15,958
一般財源の割合	69%	89%	23%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、その際、応募者も多いことから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	2	船頭育成事業においては、計画どおり進捗している。うかい観覧者数は大雨などによる川止め日が多くあり、前年よりも減少となった。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	特になし
令和元年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	鵜飼事業の保存継続のため、新たな船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須である。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。	地方創生関連の交付金を活用し、「なかのり」「とものり」を育成。また、各所へのキャラバン等による宣伝活動を通じ、観光客増につなげる。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	2	友好交流費	284

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	国際交流及び多文化共生推進等
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 国際的に通用する人材の育成や国際理解、交流推進を図る。 在住外国人に対応した快適な居住環境の整備を図る。 国内海外姉妹友好都市との交流を実施する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○多文化共生推進事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる言語や文化を持つすべての市民が暮らしやすいまちづくりを目指す。(主な事業) <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生推進員等による相談窓口の設置 各種申請書等翻訳事業の実施 コミュニティ通訳者養成講座の実施 コミュニティ通訳者派遣システムを活用した在住外国人の支援 多言語情報紙発行や在住外国人の居場所づくりの実施 ○交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流員による異文化交流・理解のための事業の実施 ・姉妹友好都市との交流、青少年海外派遣事業の実施 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> (効果) 国際交流事業、多文化共生推進事業の推進及び国内外の姉妹友好都市との交流を図ることができる。
事業の成果・効果	異なる言語や文化を持つ全ての市民が暮らしやすいまちとなるよう多言語による情報誌の発行や外国人無料相談窓口の設置を実施した。また、コミュニティ通訳者の派遣の実施、行政窓口で使用する各種申請書を多言語に翻訳するなど、外国人住民のコミュニケーションの支援を実施した。犬山市における多文化共生推進施策を計画的に実施していくためビジョンを作成した。犬山国際交流協会の適正な運営事務を維持させ、事業の推進を図るため、引き続き協会の体制づくりの支援を行った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

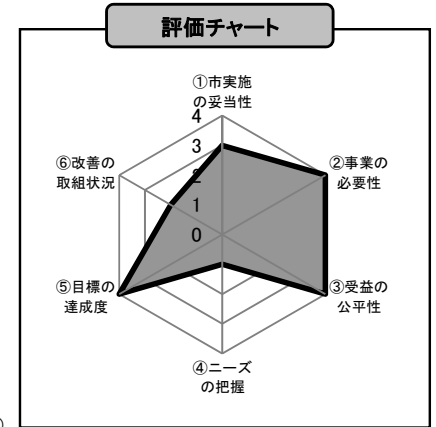
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
友好交流推進	11,863	7,461	4,402	37%	3	3	2
多文化共生推進	5,983	10	5,973	100%	3	3	2
海外青年招致	3,899	0	3,899	100%	4	4	1
国際交流事業振興基金積立金	4	4	0	0%	4	4	1
国内都市交流	464	0	464	100%	3	4	2
海外都市交流	712	0	712	100%	3	4	2
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	22,925	7,475	15,450	67%	3	3	1

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		20,512	22,925	24,083
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	7,259	7,475	5,026
	一般財源	13,253	15,450	19,057
一般財源の割合	65%	67%	79%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	外国人住民が地域生活を送るためのコミュニケーションや生活の支援は必要な事業である。
②事業の必要性	4	外国人住民が地域生活を送るためのコミュニケーションや生活の支援は必要な事業である。
③受益の公平性	4	国籍や言語の異なる市民同士が生活している環境づくりをすることは、外国籍住民のみではなく、広く市民全体の為となる。
④ニーズの把握	1	市民アンケートは実施していないが、外国人住民との会話を必要とする学校、子ども未来園、町内会等からのニーズは多い。
⑤目標の達成度	4	多文化共生を推進するために設置した多文化共生推進会議において、犬山市における多文化共生事業を進めるためのビジョンを作成した。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性は、経済性を考慮して実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	犬山市における多文化共生施策を計画的に実施していくためのビジョンを作成した。また、ベトナム国籍の住民の増加に伴い、コミュニティ通訳者を拡充するため、通訳者の養成を行った。犬山国際交流協会の適正な運営事務を維持させ、事業の推進を図るため、協会の体制づくりの支援を行った。
令和元年度に見直しを実施している事項	異なる言語や文化を持つ全ての市民が暮らしやすいまちとなるよう、多文化共生推進ビジョンを活用した支援施策を構築すると共に、やさしい日本語を意識づける職員研修を行う。また、海外派遣先での危機管理体制等の構築を含め事業の再構築を図ると共に韓国との派遣事業を新たに進めていく。
今後見直しを検討する事項	異なる言語や文化を持つ全ての市民が暮らしやすいまちとなるよう、多文化共生推進ビジョンを活用した支援施策を構築すると共に、やさしい日本語を意識づける職員研修を行う。また、海外派遣先での危機管理体制等の構築を含め事業の再構築を図ると共に韓国咸安郡との交流事業を新たに進めていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
多文化共生推進ビジョンを活用した支援施策の構築 やさしい日本語を意識づける職員研修の実施 海外都市交流事業の再構築 韓国咸安郡との交流事業の確立 犬山国際交流協会の体制強化の支援	外国人住民が快適な地域生活を送るためのコミュニケーション支援を実施すると共に、多文化共生推進ビジョンを活用した支援施策を構築していく。また、やさしい日本語を意識づける職員研修を実施していく。海外都市交流事業の再構築を進めていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	3	国際交流施設費	286

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	国際観光センター及び国際交流村管理等
事業目的	地域における国際交流を促進し、市民の福祉と健康の増進を図るための拠点として犬山国際観光センター及び犬山国際交流村の管理運営を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○施設の適正な管理 <ul style="list-style-type: none"> ・会議室や舞台設備等の施設利用の提供 ・犬山国際観光センターの多機能化に伴う改修設計 ・フロイデホールの利用形態の検討 ○経年劣化に伴う修繕工事の計画的な実施 ○国際交流村の適正な管理 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> (効果) 地域における国際交流を促進し、市民の福祉と健康の増進を図ることができる。
事業の成果・効果	<p>犬山国際観光センターの管理は、施設利用の提供を行うと共に、経年劣化による空調機更新工事等の修繕工事を行い、円滑な施設利用の提供に努めた。借地している駐車場用地の1筆を所有者の希望により返却したので、榊名鉄協商が管理する駐車場を臨時駐車場として借りることで、利用者の駐車場の確保に努めた。</p> <p>福祉会館の機能停止に伴う機能移転による改修工事を令和元年度に行うため、設計事業を実施した。また、併せて老朽化が進んだ空調設備や照明設備の更新工事を行うための設計事業を実施した。</p>

II：個別事業内訳

(単位：千円)

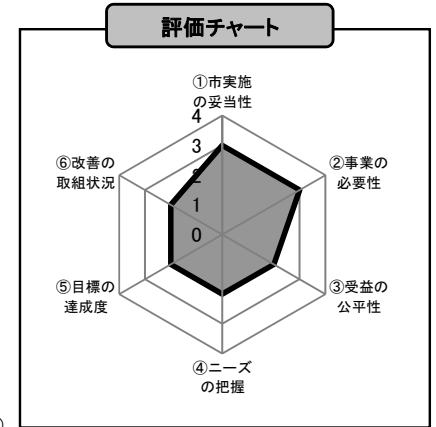
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
国際観光センター管理	94,075	24,486	69,589	74%	3	3	2
国際観光センター営繕	23,593	5,546	18,047	76%	3	3	1
国際観光センター利活用	1,370	181	1,189	87%	3	3	1
国際交流村管理	1,498	0	1,498	100%	3	3	1
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	120,536	30,213	90,323	75%	3	3	1

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		111,005	120,536	375,286
財源内訳	国庫支出金	0	0	138,642
	地方債	0	0	143,100
	その他	23,151	30,213	21,807
	一般財源	87,854	90,323	71,737
一般財源の割合		79%	75%	19%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	地域における国際交流、多文化共生の拠点としての利用のほか、舞台、ホール、会議室等の貸館としても多様に活用されている。
②事業の必要性	3	地域における国際交流、多文化共生の拠点としての利用のほか、舞台、ホール、会議室等の貸館としても活用されている。
③受益の公平性	2	主として、舞台、ホール、会議室等の貸館としての利用やプール、フィットネスの利用など、利用する市民は限られる事業ではあるが、利用料の負担を求めている。
④ニーズの把握	2	施設利用者への意見聴取などにより利用者ニーズの把握に努めている。
⑤目標の達成度	2	平均稼働率40%を目標としていたが、33.4%であった。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性は、経済性を考慮して実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	経年劣化による空調機の工事を行い、円滑な施設利用の提供に努めた。駐車場用地の一部を所有者の希望で返却。榊名鉄協商の駐車場を臨時的に借用し、利用者の駐車場確保に努めた。福祉会館機能移転に伴う改修工事を実施する為、基本設計と実施設計を行った。また老朽化した空調・照明設備の更新工事にかかる設計を実施。
令和元年度に見直しを実施している事項	H30の設計を基に1Fフロアのレイアウト変更や貸会議室の改修・増設工事を行うと共に、カーボンマネジメント事業に採択された空調設備の改修や照明設備のLED化工事を行う。フロイデホール舞台機構設備の機能を維持する為、改修工事を行う。R2年4月のリニューアルオープンに向け関係者と調整を行う。
今後見直しを検討する事項	施設所管替えに伴う庁内での綿密な調整会議や入居する関係各団体と調整を行い、円滑なリニューアルオープンに備える。また、駐車場不足分について対応を検討する。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
フロイデの改修工事、空調設備の更新工事、照明設備のLED化工事、フロイデホールの舞台機構設備の更新工事等の実施。リニューアルオープンに向けた関係者との綿密な調整。駐車場不足分について対応の検討。	リニューアルオープンに向けた改修工事の実施と関係者との綿密な調整会議の実施。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)
木曾川うかい事業費特別会計	439

部局名	経済環境部
課名	観光交流課

I：事業概要

施策事業名	木曾川うかい事業
事業目的	「木曾川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○鵜舟操船に係る船頭の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業を実施し、船頭不足の解消と鵜飼の保存に取り組む。 ○木曾川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の鵜舎の老朽化により、移転について継続した研究を行う。 ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・今後も犬山の伝統漁法、木曾川の観光資源として継続していくため、取り組み体制について継続して検討する。 ●その他（効果） <ul style="list-style-type: none"> ・木曾川うかいを伝統文化として保存し、観光資源として活用できる。 ・活用することにより、観光振興、観光誘客の促進が図られる。
事業の成果・効果	1300年続く「木曾川うかい」という伝統的漁法を犬山のかげがえのない伝統文化として今年度も引き続き実施し、保存継承することができた。但し、大雨などによる河川の増水などもあり、川止めの日も多くなり、鵜飼観覧者数は昨年よりも減少した。地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業において、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

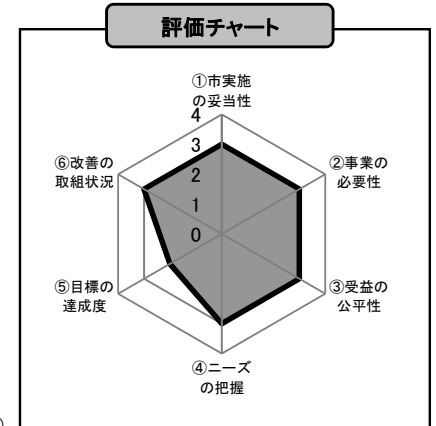
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
維持管理費	58,495	7,551	50,944	87%	3	3	3
予備費	0	0	0	-	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	58,495	7,551	50,944	87%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		60,233	58,495	71,603
財源内訳	国庫支出金	7,011	5,721	5,721
	地方債	0	0	0
	その他	16,912	1,830	2,050
	一般財源	36,310	50,944	63,832
一般財源の割合		60%	87%	89%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、その際、応募者も多いことから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	2	船頭育成事業においては、計画どおり進捗している。うかい観覧者数は大雨などによる川止め日が多くあり、前年よりも減少となった。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	特になし
令和元年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	鵜飼事業の保存継続のため、新たな船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とのり」育成事業を今後も実施する必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とのり)の育成が必須である。取り分け専門性の高い「とのり」を育てることが重要である。	地方創生関連の交付金を活用し、「なかのり」「とのり」を育成。また、各所へのキャラバン等による宣伝活動を通じ、観光客増につなげる。